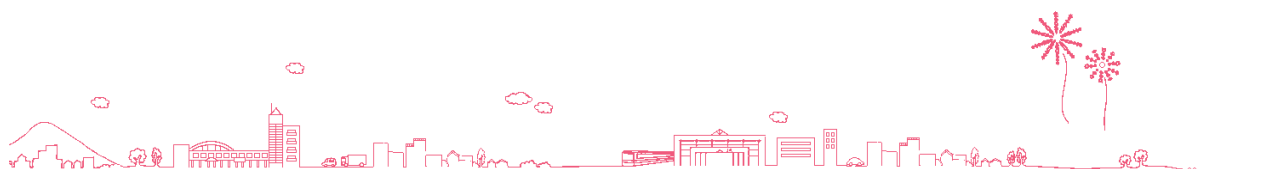


第2章

計画体系



第2章 計画体系

第1項 計画体系

将来ビジョン

「輝く SONZAI つながる TOKAI」

～ 共に生き 共に育つ しなやかで活力あるまち ～



まちづくりや地域づくりを進めていくのは、村民や行政などの「人」です。村が令和12年(2030年)に向け「しなやかで活力あるまち」に成長するため、地域の核となる人財や、これからの村の未来を担う次世代の人財を見出す必要があります。そのため、計画期間であるこの5年間で、新たな人財の育成や、地域や各世代、村内団体などで活躍する人財の活動を支援することで、このような人財同士のつながりを生み出し、より新しい価値を見出す取組を推進します。合わせてそれらをコーディネートできる村民や村職員の育成に取り組みます。

また、「人づくり」を進める上で土台となる「暮らしの基盤整備」と「まちの魅力向上」についても取組の柱とし、「しなやかで活力あるまち」に成長するための取組を、樹木が成長していく様子に見立てて、計画体系にまとめました。

その暮らしの基盤が大地にしっかりと根を張り、まちの魅力、村への思いという水や養分を加えることで、村民と行政が協力し合いながら、「人づくり」という大樹を、10年後の大空に向け育てていくことを表わしています。

「根」 安心して暮らし続けることができるまちづくり

「人づくり」を進めていくために、まずは安心して暮らせる村であることが大前提となります。

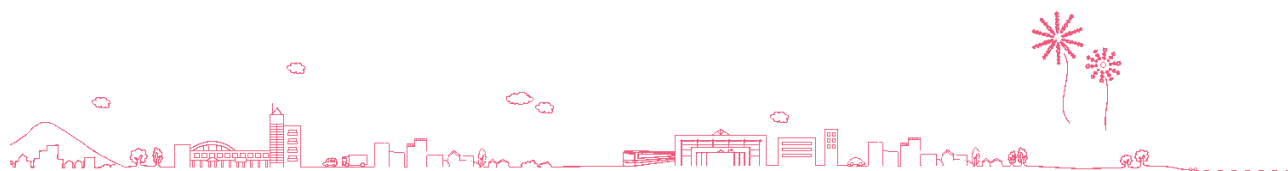
そのために、健康、子育て、教育、公共交通の整備、災害対策、インフラ整備や公共施設の維持管理など、暮らしていく上で必ず必要となる取組を基盤とし、全世代が暮らしやすい、“生涯東海村に住み続けたい”と思えるような基盤の整備を、ハードとソフトの両面から進めていきます。

「水・養分」 魅力あるまちづくり

“東海村が好きだ”、“東海村で暮らし続けたい”と思えるような魅力を伝え、さらに新たな魅力を創造していくことで、「人づくり」を相乗効果的に推進していく原動力とします。この取組が、人づくりを進めていく上で、樹木の成長を促進する水と養分になります。

「大樹」 未来を担う人づくり

「人づくり」の最終的な目標は、地域の核となる人財など、村の今や、未来を担う人財が育っていく自然循環が完成することです。そこで、「人づくり」に段階的に取り組んでいくことにより、人づくりの自然循環を実現します。



「人づくり」実現のための循環

- ①輝き まず、村民それぞれの「輝き」を大切に、活躍のフィールドを整え、その活動を支援します。
- ②気付き・つながり 自己の可能性や能力への気付き、さまざまなフィールドでの対話と交流を促進することで、「人づくり」の輪に加わる機運を醸成するとともに、それぞれがつながるきっかけを創出することで、村の新たな価値・可能性を見出します。
- ③次代への継承 それぞれの活動を可視化し、先人や地域からの学びを継承することで、活動意欲を喚起し、さらには、次代の村を担う子どもたちの育成につなげます。
- ④人づくり環境の整備 どの段階においても、場所の整備、情報・機会の提供、気軽に取り組むことのできる環境を整備します。また、村職員が村民と向き合い、寄り添う姿勢が非常に重要となるため、村職員の育成や働き方改革をはじめとする、新しい「役場」への転換（p.65）に取り組みます。

①～③が循環し、④において「人づくり」の環境を整備することにより、各項目の取組を相乗効果的に高め合いながら、「人づくり」を進めていきます。

コラム ③ 計画策定に関わった村民の想い ～計画体系ができるまで～

計画策定にあたり、何をどのように取り組むかを話し合うため、「協働のまち・防災」・「福祉」・「教育」・「産業振興」・「環境・街づくり」の5分野において、村民と職員からなる合同ワーキング委員会を組織し、それぞれの分野で3回、計15回のワークショップを実施しました。

第1回目

「東海村にとっての強み・宝」・「東海村の目指すべき将来像」に関して、各分野の観点から、それぞれの意見を付箋に書いて提示する形式で意見交換を実施しました。

<第1回目のワークショップで出た意見>

第2回東海村総合計画審議会ワークショップで出た意見（p.11 参照）に加え、「出掛けやすい（社会参加しやすい）まち・出掛けたくなるような魅力的なまち・誰でも外出することが当たり前なまち」になっていることを望む意見が出されました。そして、各分野で共通して「安心して暮らせるまちであること」への想いを確認しました。

「安心して暮らすための基盤整備」を土台としながらも、「地域や次代を担う人を育てていく（人づくり）」を中心に据え、さらには『『まちの魅力』・『村への想い』への向上』が、人づくりを相乗効果的に推進していく原動力となるため、この3つを取組の柱とすることとしました。

第2・3回目の
ワークショップの
キーワード
としても活用

第2回目

第3回目

ありたい姿・あるべき姿に近づくためには、現状の課題を分析し、理想との差を埋める取組（＝政策・施策）が必要不可欠です。現状と理想との差を埋めるために何をすべきか。第1回目のワークショップの結果から、全分野に共通する村特有の中心的な課題を2つ抽出し、第2回目・第3回目において、その何をすべきかについてワークショップ形式で議論を重ねました。

<ワークショップの方法>

【課題分析】課題を解決するために何をすべきかを明確にするために、まずはその課題が発生している原因について意見交換し、分析する。

【取組の検討】課題が発生している原因を取り除くために何をすべきか意見交換する。

すべての意見を付箋に書き出し、出された意見をツリー形式に貼り出すことによって構造化し、議論の内容を可視化しながら進める。

出された意見が、「何をすべきか＝政策・施策」のエッセンスとなっています。以下が、出された意見の一部です。



【中心的な課題①】第2回ワークショップ

「担い手が不足している／人財発掘がうまくできていない」

■原因

- ・ 特定の人に、地域の仕事や役場の委員委嘱等が集中し、負担感が多い。
- ・ 地域とのつながりがなく、活動に参加しにくい。
- ・ 地域にどのような人がいるのか分からない。
- ・ 地域の担い手になろうとしても、未経験だと思ふと、ハードルが高い。
- ・ 生活に余裕がなく、優先順位が低い。

■取組

- ・ 人財バンクを作り、地域でも役場でも、人財を把握できるようにする。
- ・ 地域とつながりやすい機会を提供する。
- ・ さまざまな場面で、気軽に参加できるような工夫をする。
- ・ 郷土愛を醸成する。
- ・ 地域や次代のリーダーとなる人財を育てる。

【中心的な課題②】第3回ワークショップ

「外へ『出掛けにくい』・『社会参加しにくい』状況がある」

■原因

- ・ 外出する体力、気力がない。
- ・ 車を持っていないと、出掛けにくい。
- ・ 出掛けたくなるような魅力的な目的地がない。
- ・ 外出先にトイレや休憩場所があるかが心配。
- ・ 防犯上の心配がある。
- ・ 気軽に参加できるイベントが少ない。

■取組

- ・ 普段から健康に暮らせるような取組や街中の整備を進める。
- ・ 公共交通の利用環境、地域助け合いの向上。
- ・ 街灯設置や地域の目を増やすことで、安心して外出できるような体制をつくる。
- ・ イベント等に気軽に参加できるような工夫をする。



<ワークショップに参加した委員の声>

☆意見を模造紙に貼り出して構造化することによって、何について話しているか分かりやすく、議論しやすかった。

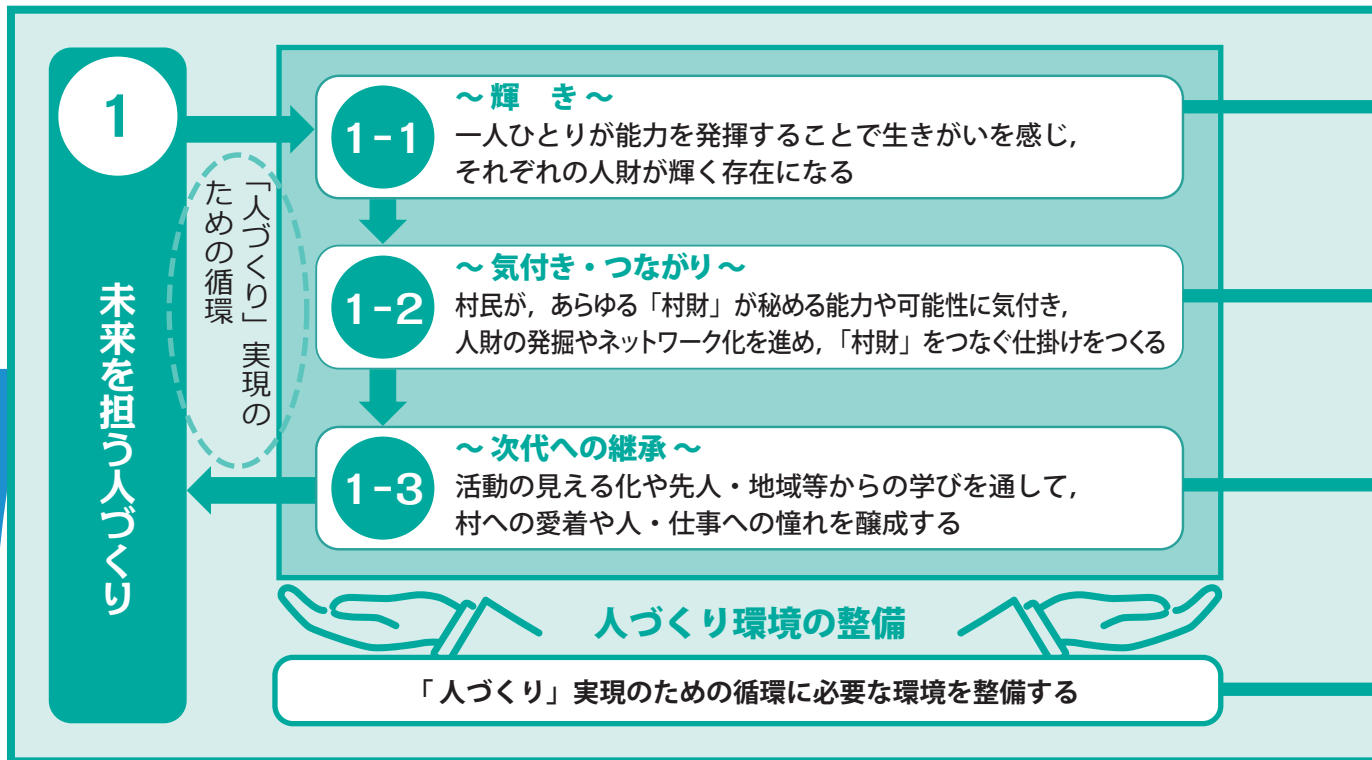
☆これから自分たちの声が反映されていく感じがして、有意義だった。

〈計画体系図〉

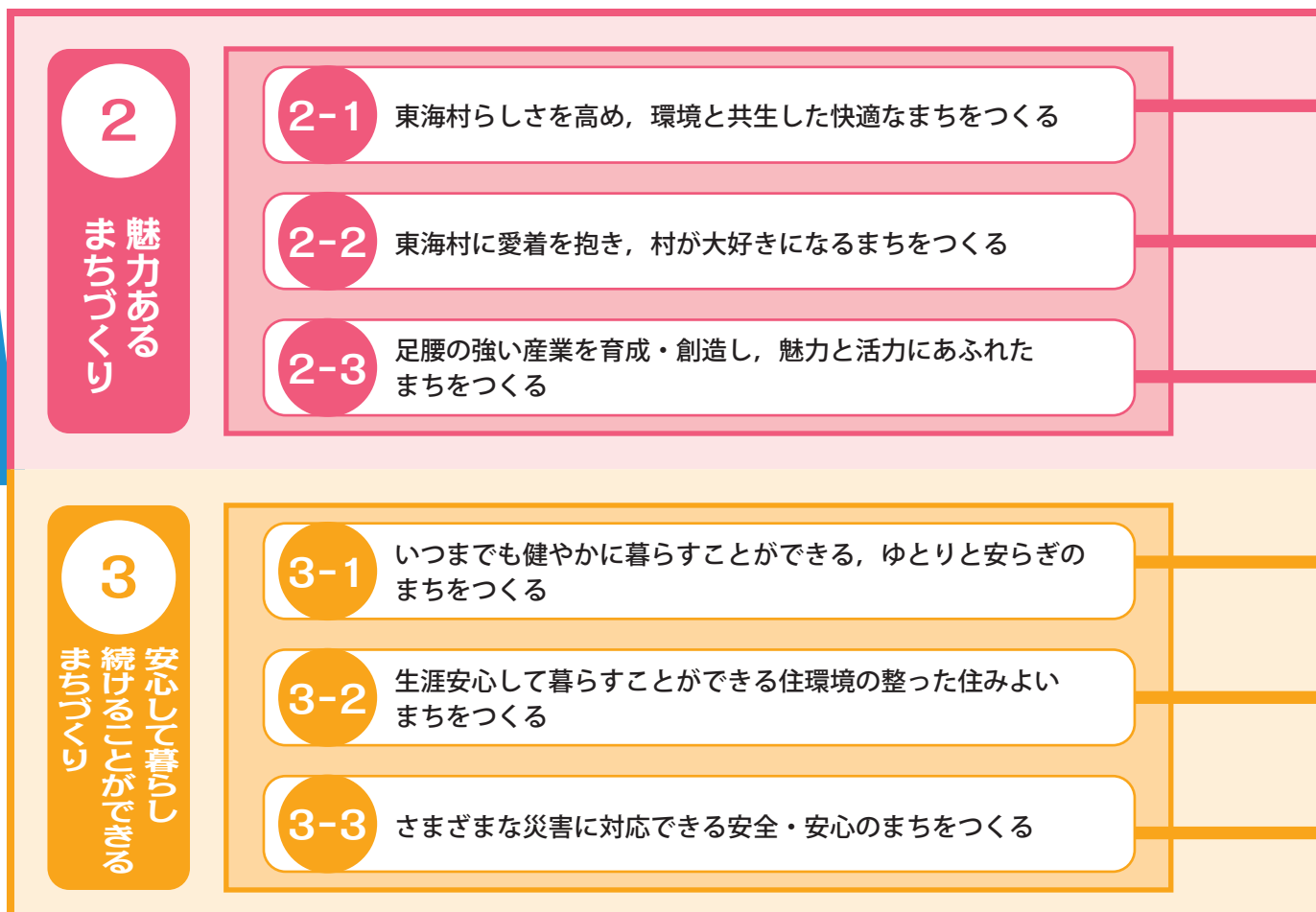
取組の柱

実現のために…

政 策



相互連携



「輝く SONZAI しながら TOKAI」

共に生き 共に育つ
しなやかで活力あるまち

- 1-1-1 すべての村民がさらなる輝きを増すための支援体制の整備
- 1-1-2 新たな活動を始める村民が輝きを見出すための支援体制の整備
- 1-1-3 村民同士が多様性を認め輝く存在となるための共生環境の整備

- 1-2-1 伝統文化やふるさとの地域資源を学ぶ機会の提供
- 1-2-2 村民の主体的なまちづくりを支援する情報の発信
- 1-2-3 地域の次世代リーダー育成と世界に羽ばたく人財の育成
- 1-2-4 村民の想いを地域活動につなぐためのコーディネート機能の向上
- 1-2-5 村民が集い・語り合い・つながりあう場の充実化
- 1-2-6 共感から共創・協創につなぐ未来志向の地域づくりを実現する対話の推進

- 1-3-1 生きる力と豊かな心を育む特色ある教育の推進
- 1-3-2 体験活動を通じた子どもたちの健全な育成
- 1-3-3 地域や国内外で活躍するトップランナーへの憧れを抱く取組の推進

＜「未来を担う人づくり」実現のための施策に共通する視点＞

- 若者の地域や行政への参画の推進
- 村民が気軽に参加できるまちづくりの推進
- 村職員の意識改革（⇒第5章 新しい「役場」への転換）

- 2-1-1 村の特性に対応した機能性と質の高い都市環境の充実
- 2-1-2 環境に配慮した持続可能なまちづくりの推進

- 2-2-1 歴史や文化、自然を生かした魅力あるまちづくりの推進と次世代への継承
- 2-2-2 スポーツによる賑わいづくりの推進
- 2-2-3 「選ばれるまち」であり続けるための観光振興と戦略的な広報活動の充実

- 2-3-1 産学官の連携による科学技術の進展と産業創出による地域活性化
- 2-3-2 魅力あふれる産業としての力強い農業の推進
- 2-3-3 活力ある商工業の振興による地域経済の活性化

- 3-1-1 生涯を通じた健康づくりの推進
- 3-1-2 誰もが住み慣れた地域で支え合い、安心して暮らすことができる体制の構築
- 3-1-3 安心して子育て・就学・修学できる環境の整備

- 3-2-1 村の特性に対応した新時代の公共交通の充実
- 3-2-2 時代の変化に対応した都市基盤の整備

- 3-3-1 原子力災害の発生防止と対応力の強化
- 3-3-2 あらゆる自然災害への対応力の強化
- 3-3-3 防犯・交通安全体制の整備と適切な情報の提供

第2項 施策ごとの方向性

計画体系において位置づけたそれぞれの施策について、何を目的に、どのような取組を実施するかをまとめました。また、SDGsのターゲット、インディケーター（指標）を参考に、それぞれの施策に、どのゴールが結び付くかを目安として例示し、SDGsの推進を図ります。

1. 未来を担う人づくり

1-1

～輝き～

一人ひとりが能力を発揮することで生きがいを感じ、それぞれの人財が輝く存在になる

1-1-1 すべての村民がさらなる輝きを増すための支援体制の整備

村で活動する人財が、将来にわたって輝き続けることができるよう、村内に暮らす住民をはじめ、自治会やボランティア、さらには、スポーツや健康づくり等のあらゆる分野において、主体的に活動を行う個人や団体の取組を、多側面から支えるとともに、能力を引き出し、さらなる自信や生きがいに結び付けるための支援体制を整えます。



1-1-2 新たな活動を始める村民が輝きを見出すための支援体制の整備

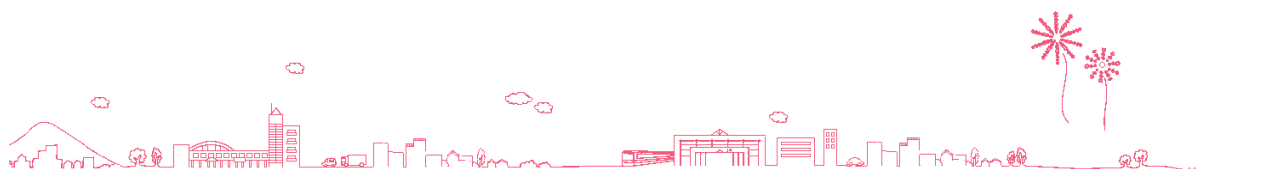
新たに活動を始める村民や、就農や創業等により新たな仕事に携わる村民が、夢や希望を抱きながら活動や仕事に取り組み、将来、村や地域の原動力となる人財として輝き活躍することができるよう、必要な支援体制を整えます。



また、さまざまな分野における新たな人財を確保するため、各分野における活動者間のもとより、分野を超えた連携の取組についても、積極的に推進します。

1-1-3 村民同士が多様性を認め輝く存在となるための共生環境の整備

すべての村民が輝き合い、主体的なまちづくりを進めることができるよう、その根幹となる多様性を認め合える環境づくりを推進します。国際交流等を通じた、価値観を含めた多文化共生をはじめ、男女共同参画や性的マイノリティへの理解、人権擁護などの取組を着実に進め、すべての住民が暮らしやすい環境を整備することで、村民一人ひとりがそれぞれの立場や役割を理解し、相互に認め合い、尊重し合い、共にまちを築く地域共生社会を実現します。



村民が、あらゆる「村財」が秘める能力や可能性に気付き、人財の発掘やネットワーク化を進め、「村財」をつなぐ仕掛けをつくる

1-2-1 伝統文化やふるさとの地域資源を学ぶ機会の提供

村民一人ひとりが、先人たちが守りつないできた村の文化や歴史、自然について知ること、それらの資源を誇りとし“東海村が好き！”，“ずっと住みたい！”と感じる愛郷心を育みます。

また、村の貴重な資源を守り育てようとする行動を通して、人間性や創造性の向上へとつながるよう、子どもから大人まで幅広く対応した学びの環境を提供します。



1-2-2 村民の主体的なまちづくりを支援する情報の発信

村民が自らの能力や可能性に気付き、主体的に活動に取り組むきっかけづくりを支援するために、村内で活躍する人財に関する情報を集約し、村民のニーズに対応した情報を発信します。

また、村内の自然、歴史、文化、科学などに関する魅力的な情報についても、村民がその魅力を知り、村の貴重な宝として活用できるよう、さまざまな手段と媒体を効果的に活用しながら発信します。



1-2-3 地域の次世代リーダー育成と世界に羽ばたく人財の育成

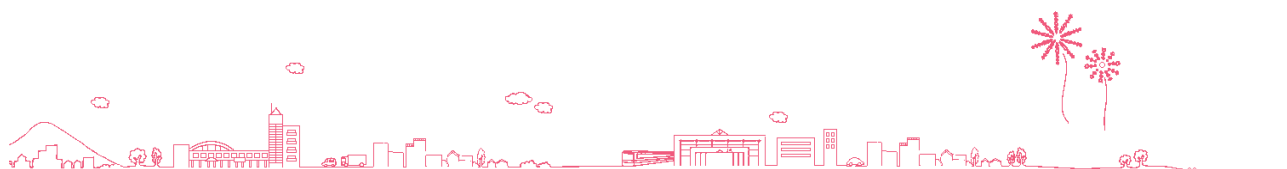
地域のさまざまな社会資源を生かし、村が活力にあふれたまちに成長するためには、リーダーとなる人財の活躍が不可欠です。そこで、若い世代をはじめとして、まちづくりを牽引・先導するリーダーとなりうるキーパーソンを発掘し、地域の次世代を担い、主体的に活動することができる人財育成の取組を進めます。

また、将来、世界に羽ばたき、ふるさと東海村の価値を高める人財の輩出に向け、子どもたちの好奇心と探究心を育むことで、子どもたちが将来の目標を持ち、また“ふるさに育ててもらった”と感じられるような人財育成の環境を、地域全体で育みます。



1-2-4 村民の想いを地域活動につなぐためのコーディネート機能の向上

地域のため、誰かのため、あるいは自らの自己実現のためなど、村民のあらゆる想いを活動につなげるため、集約した人財に関する情報を活用し、さまざまな地域活動のコーディネートや、多機関の連携を進めます。また、これらの調整や連携においては、郷土愛を育み、地域への愛着につなげる観点から、村内に有する自然や文化などの、貴重かつ多様な社会資源の活用も視野に入れた取組を推進します。



1-2-5 村民が集い・語り合い・つながりあう場の充実化

人財のつながり合いにより、新たな価値や可能性を見出すためには、つながりの「場」が必要です。個々の人財においても、「場」を共有することで、より力を発揮しやすくなることから、さまざまな分野やテーマで、あるいは同世代、多世代、地域などあらゆる形で村民が集い、語り合い、つながり合う場づくりを、村民の協力のもとで推進します。



1-2-6 共感から共創・協創につなぐ未来志向の地域づくりを実現する対話の推進

地域のさまざまな人財をはじめ、あらゆる地域資源を活用し、地域の特性を生かしたまちづくりを推進するため、地域と行政が手を携えた、共創・協創による新たな住民対話の場づくりを推進します。対話を通して、地域の課題を自分ごととして捉え、持続可能な地域のあり方を見つめるとともに、地域の人財や資源が持つ可能性に気づき、想いの共有と共感の場が生まれることで、つながりを実感する地域社会の実現に寄与します。

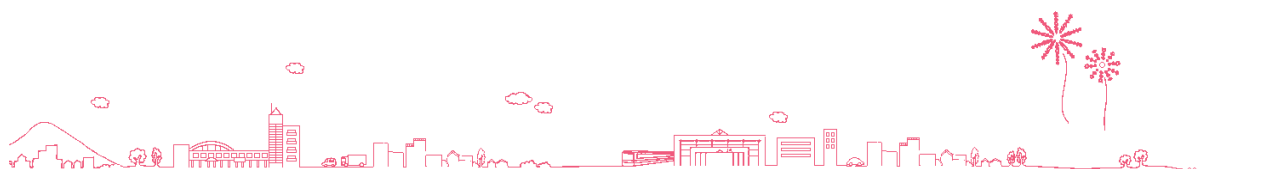


あなたの想いを書きこんでみよう

「あなたが今取り組んでいること、あなたを輝かせるものはなんですか？」

あなたの想いを書きこんでみよう

「その取組は、東海村の『まちづくり』にどのようにつながっていきますか？」



活動の見える化や先人・地域等からの学びを通して、村への愛着や人・仕事への憧れを醸成する

1-3-1 生きる力と豊かな心を育む特色ある教育の推進

次代を担う子どもたちが、自ら学び考え、将来につながる生きる力を修得するとともに、郷土愛にあふれた豊かな心を育成するため、一人ひとりの個性や能力を伸ばす指導や多彩な体験活動を取り入れた、東海村ならではのきめ細かな教育を推進します。

また、子どもから大人まであらゆる世代が、歴史や文化、住み慣れた地域について、地域全体で学び合える場づくりを支援します。



1-3-2 体験活動を通じた子どもたちの健全な育成

複雑で変化の激しい時代のなかでは、試行錯誤しながらも生き生きと成長し、自らの手で自らの人生を切り開くとともに、多様な価値観を受容することができる子どもたちの育ちを支えていく必要があります。そのため、学校や地域等が連携しながら、子どもたちにさまざまな体験活動の場を提供し、直接体験を通じて豊かな人間性を養うことで、子どもたちの健全育成に取り組みます。



1-3-3 地域や国内外で活躍するトップランナーへの憧れを抱く取組の推進

村内のさまざまな分野において、その中心となり活躍するリーダーや、村で育ち、国内や世界に羽ばたき活躍する人財は、村民に元気を与え、地域に活力を生み出すトップランナーであり、憧れの対象となりうる村の宝でもあります。

こうした人財を村民が誇りに思い、応援することで生きがいを生み、人財が活躍の幅を広げることで、村民の元気や希望ひいては地域の未来への活力につながり、子どもたちの夢や自信をも育むことから、あらゆる分野で活躍する人財との多様なコミュニケーションの機会等を創出し、活動や活躍への憧れにつながる取組を推進します。

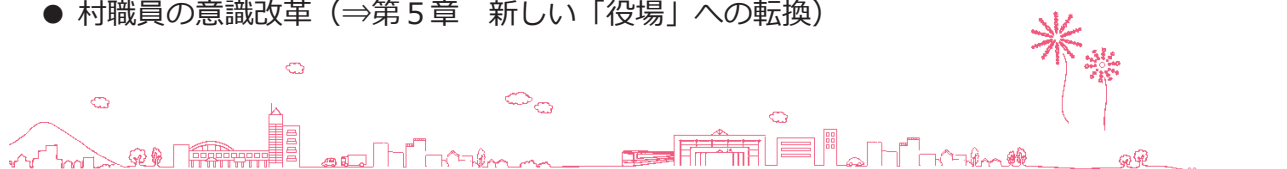


～人づくり環境の整備～

「未来を担う人づくり」実現のための施策に共通する視点

「未来を担う人づくり」の実現に向けた各施策の推進に際しては、次の項目を共通の視点として取組を進め、各施策に基づき実施する事務事業の実効性の向上を図ります。

- 若者の地域や行政への参画の推進
- 村民が気軽に参加できるまちづくりの推進
- 村職員の意識改革（⇒第5章 新しい「役場」への転換）



2. 魅力あるまちづくり

2-1

東海村らしさを高め、環境と共生した快適なまちをつくる

2-1-1 村の特性に対応した機能性と質の高い都市環境の充実

東西、南北とも約8kmのコンパクトシティである東海村の特性を生かすため、村の顔となる土地区画整理地内などの市街地を中心に、自然に人々が行き交い、交流を誘発する都市基盤の充実を図るほか、村全体を俯瞰し、居住環境や自然環境、農地・林地など異なる環境の共存を目指したまちづくりを推進します。

また、近年社会問題化している空き家の増加が、魅力あるまちづくり実現の阻害要因につながることを防ぐため、分野を横断し、さまざまな観点から空き家の発生防止や発生後の対策などに取り組みます。



2-1-2 環境に配慮した持続可能なまちづくりの推進

環境へ配慮した質の高い生活の確保や活動、村の貴重な資源である豊かな自然を守り育てることは、地域資源を有効に生かした持続可能な社会の構築につながります。生物系の保全・再生や資源循環による環境負荷の低減などについて、村民や事業所、団体などの多様な主体とのパートナーシップによる取組を推進することにより、自然と人が共生する快適で心豊かな生活環境の確保につなげます。



(とうかい環境フェスタ キャンドルナイト)



(JR東海駅前)



(新緑の真崎浦)

2-2-1 歴史や文化、自然を生かした魅力あるまちづくりの推進と次世代への継承

歴史や文化、自然を生かした魅力あるまちづくりを推進するため、文化財の計画的な調査研究を進め、先人が長年にわたり守り育ててきた歴史、文化や史跡等を保全・整備します。また、郷土の誇るべき文化財を次世代へ継承するため、ふるさと東海村の歴史や自然を学び、理解・共有するための情報発信や、体験型の取組を推進するほか、文化の伝承や村民の文化活動の支援に取り組み、郷土愛の醸成につなげます。



2-2-2 スポーツによる賑わいづくりの推進

心身の健康増進と活力あるまちづくりを目指し、スポーツ習慣づくりの機会を提供し、誰もが気軽に、楽しみながらスポーツに親しむことができる環境を整備します。

また、スポーツを「する」だけでなく、「観る」、「支える」など、スポーツとの多様な関わりを通して、暮らしの質の向上や、人と人との交流による地域の一体感の醸成、地域活性化など、賑わいと活力に満ちたまちづくりに取り組みます。



2-2-3 「選ばれるまち」であり続けるための観光振興と戦略的な広報活動の充実

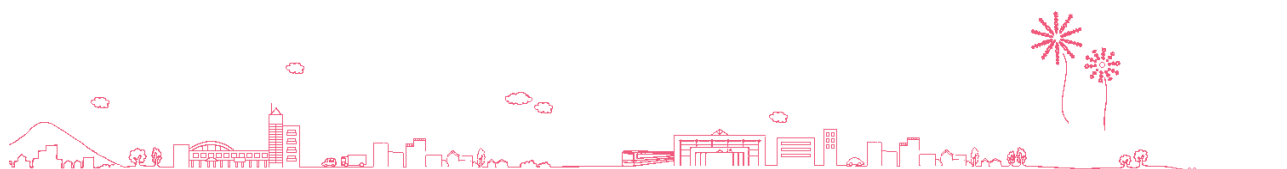
村の魅力について村内外における認知度を高め、次代を担う若者を中心に、村への興味関心の向上につなげ、“訪れたいまち”、“暮らしてみたいまち”、“暮らし続けたいまち”としての「選ばれるまち」を目指します。村内の地域資源を生かしたさらなる観光の振興をはじめ、地域の元気あふれる活動や村の取組などに関するシティプロモーションの充実化や、分野を横断した戦略的なプロモーションの実施について、地域とともに取り組みます。



(小学生による国体炬火の採火)



(「いきいき茨城ゆめ国体2019」でのホッケー競技)



2-3-1 産学官の連携による科学技術の進展と産業創出による地域活性化

最先端科学が集積する東海村の特性を生かしたまちづくりを進めるため、産学官の連携による科学技術の進展を推進するとともに、科学技術を活用した新たな産業の創出に取り組む事業者を支援し、最先端の科学技術と連携した産業づくりの後押しにより、地域の活性化を図ります。

また、最先端科学を村の魅力のひとつとするため、科学や研究者を身近に感じる機会を提供するほか、子どもたちに最先端科学などを学ぶ機会・触れる機会を提供し、科学への探求心を育むことで、次世代に、科学技術の進展に貢献する人材育成につなげます。



2-3-2 魅力あふれる産業としての力強い農業の推進

地域経済を牽引する魅力ある産業のひとつである農業を、まちの活力向上につなげます。村内産の新鮮かつ安全・安心な農産物の認知度向上や地産地消の推進はもとより、生産や販路拡大、農業施設の整備や農地保全など、多面的な支援を行うことで、力強い農業の推進を図ります。

また、村の主要産品である、ほしいものの品質の向上にも取り組み、さらなる販路拡大を図ります。



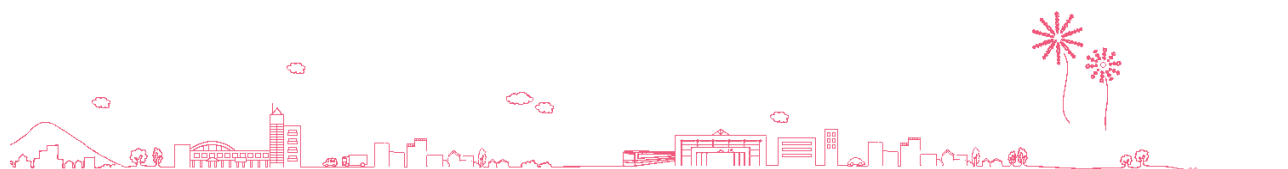
2-3-3 活力ある商工業の振興による地域経済の活性化

地域経済を牽引する商工業のさらなる振興を図り、活力ある地域経済を推進します。既存事業者への支援策の充実はもとより、企業の立地促進や充実した創業支援体制の整備、就業機会の創出や雇用促進など、商工会など関係機関と連携しながら、さまざまな角度からの商工業の活性化を図ります。



あなたの想いを書きこんでみよう

「東海村がもっと魅力的になるには何が必要ですか？」



3. 安心して暮らし続けることができるまちづくり

3-1

いつまでも健やかに暮らすことができる、ゆとりと安らぎのまちをつくる

3-1-1 生涯を通じた健康づくりの推進

誰もが、生涯を通じて生き生きと輝きながら、自分らしく暮らすことのできる環境づくりを進めるため、疾病の予防や早期発見、早期治療に向けた取組の充実を図るとともに、食生活の改善や、日ごろから気軽にできる運動習慣を身に付ける機会づくりを推進します。

また、すべての村民が共通して取り組むことができ、生きがいを感じる豊かな生活につながる健康づくりに取り組みます。



3-1-2 誰もが住み慣れた地域で支え合い、安心して暮らすことができる体制の構築

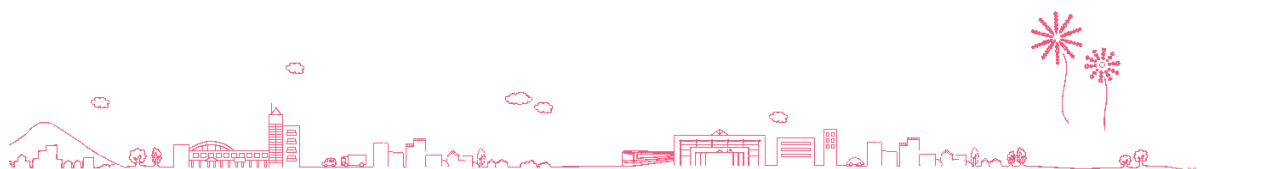
子どもや高齢者、障がい者など、誰もが住み慣れた地域で支え合いながら、安心して暮らすことができるよう、地域福祉の考えに基づき、個々の状況にきめ細かく対応した支援を推進します。

また、一人ひとりが抱える生活課題の理解により、「受け手」「支え手」の枠を越えた、「自助・共助・公助」による助け合いにつなげ、適切な対応を図ることで、村民一人ひとりの権利を守りながら、その人らしく生きることができ、地域共生社会を実現します。



3-1-3 安心して子育て・就学・修学できる環境の整備

子育て家庭と、地域の宝であり、未来を担う子どもたちの健やかな育ちを伴走型で支えるため、産前から就学前までの切れ目のない支援と、保育サービスなどの充実により、安心して子育てができる環境の整備を進めます。また、就学後は、子どもが快適に安心して学習活動を行える環境を構築するため、学校生活環境の整備や教職員の資質向上、教職員の心身の健康維持の徹底と負担軽減により、子どもと向き合う教育活動に専念できる環境を整え、一人ひとりの個性を大切にしながら、変化の激しい社会に対応できる力を備えた子どもの育成に取り組みます。また、子育てと就学・修学に対する経済的な支援体制の充実を図ります。



3-2-1 村の特性に対応した新時代の公共交通の充実

村民の移動手段の確保は、生き生きと健康に暮らすことのできるまちづくりに寄与し、暮らしの利便性の向上に直結するとともに、人々の交流や社会参加の促進にもつながることから、デマンドタクシー・路線バスの利用環境の向上など、ソフト・ハード両面の環境を整備し、誰もが利用しやすい公共交通網の構築を進めます。

特に、老年人口の増加に伴い、運転免許証を返納し自家用車を持たない住民が増えることが予想されるなか、地域住民等の助け合い等も含め、誰もが円滑で安全に移動できる移動手段を確保し、環境負荷の低減も考慮しながら、将来を見据えた持続可能な公共交通等の充実を図ります。



3-2-2 時代の変化に対応した都市基盤の整備

村民の暮らしの安全性を確保するとともに、利便性の向上を図るため、これまで整備してきた都市基盤について、慢性化する渋滞やJR東海駅周辺における駐輪台数の増加などの現状を踏まえ、時代の変化に対応した改修・整備を行うとともに、将来を見据え、道路や公共施設の継続的な維持管理と計画的な更新作業を進めます。

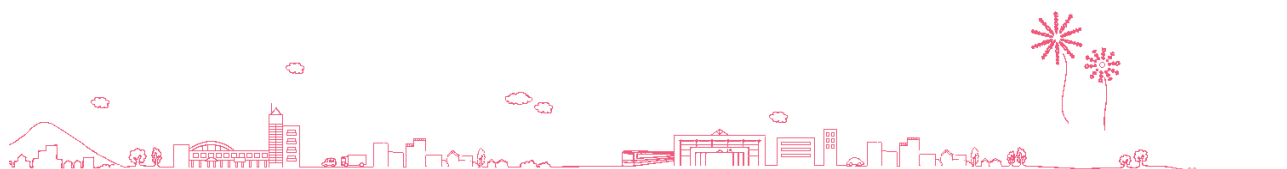
また、誰もが暮らしやすく、気軽に社会参加できるまちを目指し、ユニバーサルデザインに配慮したまちづくりを推進します。



(デマンドタクシーあいのりくん)



(路線バス【通称=イモゾーバス】)



3-3-1 原子力災害の発生防止と対応力の強化

数多くの原子力施設が立地する東海村においては、村民の安全・安心の確保を図るため、原子力施設の安全管理監視をはじめ、これまで実施してきた安全対策を継続するとともに、原子力に関する情報や知識習得の機会の提供と、緊急体制の整備に取り組みます。また、村民や事業者、行政等が、これらの安全対策やエネルギー問題を自分ごととして捉え、対話のできる環境づくりを推進します。



3-3-2 あらゆる自然災害への対応力の強化

近年、頻発・激甚化する台風や局地的大雨による風水害、地震などの自然災害に対応するため、必要な設備の整備や災害時の暮らしの安全・安心を確保する取組を進めます。

また、消防団や地域の自主防災組織への活動支援を通して、地域の防災力を高めるとともに、災害に対する危機意識や支えあいの精神を醸成することで、強くしなやかに対応できるまち、人、地域づくりを推進します。



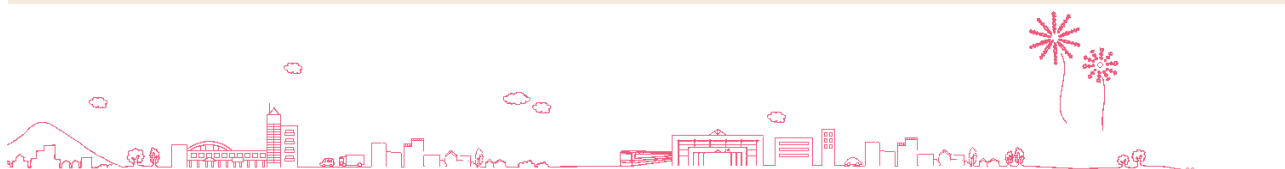
3-3-3 防犯・交通安全体制の整備と適切な情報の提供

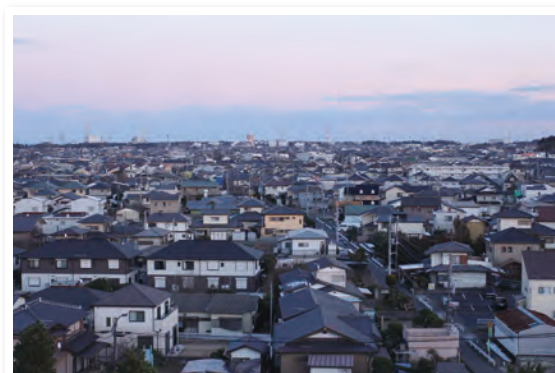
社会の複雑多様化に伴い発生する犯罪や交通事故等を防止し、村民の誰もが安心して暮らすことができるよう、防犯や交通安全につながる設備の整備や、地域の防犯力・交通安全意識の向上を図り、犯罪被害や交通事故の起こりにくい生活環境づくりを進めます。合わせて、経済の情報化や高齢化、国際化により複雑多様化した新たな消費者トラブルが増加している状況を踏まえ、消費者からの相談に対する助言やあっせんを行い、消費者教育に取り組むとともに、被害防止に向け適正な情報提供に努めます。



あなたの想いを書きこんでみよう

「あなたにとって、安心できるまち、住みやすいまち、帰ってきたくなるまちはどのようなまちですか？」





あなたの想いを書きこんでみよう

「あなたは、この東海村をどのようなまちにしたいですか？」

